

今までの総会の様子



今年度も「関東支部同窓の集い」を中止します

新たな「同窓の集い」をめざして

同窓の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。日頃は村上高校同窓会関東支部の活動にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、一昨年から続いております新型コロナウイルス感染症は、まん延防止期間が解除となったとは言え、現下の情勢から見てハッキリとした収束の見通しも立っていません。このような状況の中、本年6月予定の「同窓の集い」を如何に進められるか検討をしまして参りましたが、出席者の安全が最優先と考えた結果、誠に残念ではありますが昨年引き続き中止とさせて頂きます。

これにより3年続けての中止となり、年に1回の集まりである「同窓の集い」を楽しみにされていた方々には大変申し訳なく思っております。来年には新たな「同窓の集い」をめざして役員・幹事一体となって取り組んで参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

このような閉塞感のなかで、ご承知の通り郷土村上出身の平野歩夢君が北京オリンピックで驚異的な技で見事金メダルを取ったことは、日本そして我らにとっても大きな喜びであり、勇気を与えてくれました。そして彼の辛抱強さ、控えめな行動や言動から何か自然に村上の風土を匂わせてくれたと感じたことは、私だけではないと思っております。会員の皆様におかれましてはくれぐれもお体に十分気をつけてお過ごし下さい。マスク無しで気安くお会いできる日が一日も早く到来することを心から願っております。

村上高校同窓会関東支部 会長 山本宏平 (17回)



新潟県立村上高等学校同窓会関東支部

村高

題字 宮 絢子

2022. 5. 10
第33号

発行人 山本 宏平
編集 木村 春夫
事務局 櫻井 繁雄
神奈川県川崎市多摩区
宿河原1-22-35-308
☎044(933)1033
ホームページ<http://www.murakou.com/kantou/index.htm>

お知らせ

新型コロナウイルスの影響により、本年度も同窓の集いは中止となりました。

維持会費について

また、同窓会活動自粛のため、今年度の維持会費の徴収はとりやめにさせていただきます。



「同窓」と云う縁を大切に

関東支部副会長 高橋初雄(24回)



新型コロナウイルスの終息の見通しも儘ならない中、同窓会員の皆さまには如何お過ごしでしょうか。

さて、同窓会活動は、会員各位に支えられ、関東支部会則第3条には「会員と母校との連絡を密にし、会員相互の親睦を図ることをもって目的とする」となっております。先輩、後輩の垣根を越えて同窓と云う縁のもと親睦を深めることと理解しておりますが、コロナ禍のもとでは、従来のような活動が中々難しい実状をご理解いただきますようお願い致します。

今回の「村高」発行につきましましては、母校の様子や会員の近況などを楽しくみにしていらっしやる方も多く、執行部としてはどうしても発行したいとの思いで、従来通り発行することに致しました。出稿依頼に対しご協力を頂いた方々に対し衷心より感謝申し上げます。

母校、村上高等学校の卒業式には、これまで同窓生として関東支部会長が出席してまいりましたが、引き続き見合わせていただきたいたいの連絡があり、今年も出席することが出来ませんでした。関東支部の活動を広く知って頂く良い機会が失なわれ、甚だ残念なことと思っております。

縁あって同窓会に入会し、幹事として10年になりました。この間、魅力溢れる先輩や後輩との出会いがあり、また音信不通だった同輩とも再会できました。お互いに尊敬し感化されることも多く、私の大切な一生の宝と思っております。誠に感謝申し上げます。この経験を同窓生諸氏にも感じて頂きたく、多くの方々にお会いして頂きたく思います。同窓会のお知り合いの方でまだご入会されていない方がいらっしやいましたら是非誘いをお願い致します。

村上高校同窓会関東支部

令和2年度会計報告

本来であれば昨年の総会で報告し、ご承認を得る予定でしたが総会が中止になったためここに報告します。

【2年度収入の部】	
項目	金額
総会会員参加費	0円
来賓御祝金	0円
特別参加費	0円
本部助成金	0円
維持会費	0円
寄付金	0円
広告代	0円
雑収入(利息)	6円
前年度よりの繰越金	1,283,245円
合計	1,283,251円

【2年度支出の部】	
項目	金額
総会費	0円
印刷費	174,814円
通信費	174,986円
維持会費振込手数料	0円
会議費	13,812円
運営費	10,257円
旅費	0円
慶弔費	0円
次年度への繰越金	909,382円
合計	1,283,251円

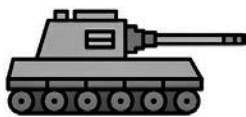
戦車、グランドを行進す

白井潔人(27回)



昭和48(1973)年の運動会のことである。昼休みに余興として仮装行列をやつてもよいということになっていた。われわれ2年1組は昨年9月にお亡くなりになった吉田牧夫先生が担当で、1年からそのまま持ち上がり、とても仲の良いクラスであった。

そんなクラスで仮装行列に出ようという話になり、いつのまにか戦車を作つて行進しようということになっていた。当時の運動会では、応援席の後ろに大きな看板を出すのが定番であったが、我々のクラスでは看板の代わりに戦車を作ろうという話になったのだ。



なぜ戦車を作ることになったかは誰も覚えていないはずだが、とにかく作成に取り掛かった。学校近くの作業場を確保し、リヤカーを借りてきて、ベニヤで外板を作り、塩ビパイプを砲身にするといいものであった。完成までに1ヵ月くらいはかかっただろうか?学校には戦車を作りに行く日々であった。



運動会当日の仮装行列では、兵士や軍医、看護婦などの仮装で歩いてもらい、続いて主役の戦車を級友が引っ張ってグランドを1周した。3年生の応援席からは「自衛隊帰れ」のシュプレヒコールをいただき、盛り上げていた。グランドの中央に戦車を止め、戦車の砲身から花火を飛ばしたのは驚いたが、なぜか万歳三唱で仮装行列を締めくくった。

運動会はクラス対抗だったが、クラスが何位になったのかも、自分がどんな種目に出場したのかもまったく覚えていない。ただただ仮装行列が何事もなく終わったという達成感だけが残った運動会であった。

後日談がある。戦車作成中から、「1組で戦車を作っている」と吉田先生にご注進があったと後で聞いた。吉田先生は笑って受け流してくれたそうである。しかし、化学の某先生は、運動会終了後の最初の授業をつぶして戦車行進を非難、我々がそれに反論するという展開となった。

ベトナム戦争の終結が昭和50(1975)年4月、運動会当時は戦争の真っ最中で日米安保問題が大きな注目を浴びていたところであった。生意気盛り的高校時代の貴重な思い出である。

(所沢市在住)



卒業後50年

阿部正人(24回)



過ぎてしまえば早かったが、あまり実感が無い。何となく過ぎたようにも思える。今から50年前は、札幌で冬季オリンピックがあり、あさま山荘事件が起きた年です。進路について迷いに迷っていたように思います。親戚や先輩の影響もあり、東京の大学に行くことは考えていませんでした。しかし当時は、特に好きな勉強も、なりたいた仕事も無かった。結局、受験に失敗。翌年合格した大学は、学生運動が盛んで、ロックアウト続きでした。授業は休講、校舎にも入れない状態でした。4年間で8回の試験も1回のみ。あとは、レポート提出で卒業でした。このような環境でも色々な所でアルバイトが出来たことは、貴重な社会勉強になりました。

そのまま就職を勧められる会社もありましたが、その気にはなれませんでした。卒業の段階になっても、特にやりたい仕事はなかった。就職課で、場当たりの就活をして、採用された会社は3か月で退職。所謂「ブラック企業」でした。その時に思いだしたのは、大学時代に所属した混声合唱のクラブの仲間たちとやった精神障害者に対するボランティア活動でした。皆で歌を歌ったり、レクリエーションを楽しんだ事でした。そのような活動は今の仕事に通じるものです。今度は、「人

のためになる仕事に就こう」という事でした。その後、縁あって、キリスト教系の病院に就職することができました。所属は医事課、次に経理課でした。そこでも人のためにという実感は持てません。ケースワーカーに相談すると、「社会福祉の勉強をしたらどうか？」と言われ、社会福祉を学べる大学に通う事になりました。勉強は、有意義なものでしたが、終わってみれば状況は変わらず、社会福祉主事の資格は得たものの何となく虚しさを感じていました。すると、今度は作業療法士の人が「日本です。今後は作業療法士の養成校が開校するので行ってみないか？」と勧められました。これに乗ったことが、その後の仕事の選択となりました。

今考えると、人との出会いがあり、6年間夜学に通えたということ、それを許してくれた職場があったということ、20代を過ごしたこの病院は大切な場所でした。卒業後は作業療法士として新潟に帰り、県立病院で定年まで勤務しました。人手不足で組織が出来ていない状態でした。当時は介護保険制度が始まる前だったので、病院のみならず、市町村の機能訓練事業や訪問リハビリ等々ありとあらゆる事をやっています。今から思えば、貴重な経験が出来たと思っています。現在は、埼玉県で仕事継続中です。50年間を振り返れば、勉強も仕事も自分に合っていたのかどうかはわからないが、続けてこられたことに感謝しつつ、今も仕事を楽しんでいます。(東松山市在住)

百里と3000マイルと2kmと

佐藤達生 (30回)



美術館や博物館のある公園を抜けて、JR在来線のターミナル駅のあたりまで時おり散歩する。その公園は江戸時代初期、村上藩主堀直奇が上屋敷を構えた地という。直奇が初代を建立した大仏は幾度かの受難と再建を経て、今はミャンマー様式の仏塔(パゴダ)にその顔だけが安置されている。

1978年4月に特急「いなほ」でのその終着駅に降りてから44年、今でも自分の身体に臥牛山での体験が残っている気がする。1972年に入学した中学校は新校舎の工期が延びたのか、我々が使うのは2学期からだという。1学期だけ小学校の隣にあった古い校舎に通った。当時は、小学校、中学校と村上高校の木造校舎が並んで建てていた。中学校と高校は同じころ新校舎に移転したのではないか。中学校の校舎は公民館になり、高校の跡地には現在の市役所が建った。

中学校で入部したバレー部では、新入生はボールに触る前に臥牛山の山頂までランニングせよ、と命じられた。あれは急いで登る山ではない、景色を愛でつつ七曲りをゆっくり行く山だ。そこを走って往復とは無理難題である。体育館からすぐ近くに見えるが、登山口まで走ればそれなりに体力を消耗し一休みしたくなる。そして途中で

なんども休憩しながら標高1355mの山頂にたどり着く。

最初は辛いだけだったが、成長期にある中学生の身体能力の進化と対応は早かった。皆の走る距離が日に日に伸びていく。いづれ山頂まで休まずに登り、ついにはノンストップで完走できるようになる。毎日距離が伸びていくのは爽快だった。中学1年生が、今というトレイルランニングを楽しんでいたわけだ。チームの基礎体力が向上し、試合で好成績を残した。その後高校でも3年間競技を続けることになる。現在も毎週テニスができる身体は、その体験が基になってきたのだろう。

臥牛山にはかつて村上藩の居城があった。城と上屋敷を隔てるおおよそ百里を江戸時代の侍はどのように往き来していたのだろうか。一日10里を歩いて10日間の旅程となる。また、どのルートを選んでも厳しい峠越えが待っている。多くの時間と体力と経費が必要な旅だったと想像するが、ちっぽけなウィルスのために交流が遮断されている現在よりも案外頻りに旅していたのではないか。



大仏の前に立つと、自然にあの時の臥牛山が原風景としてフラッシュバックする。そして、昨年2月のクワデター前に何度も訪れたミャンマーの優しく穏やかな人々の顔が眼に浮かぶ。仏塔を起点に臥牛山や遙か彼方の仏教国が見えない力でつながっているように思えてくる。

昨年2月、息子がそこから2キロほどの地で蕎麦屋を始めた。そのまちを選んだ理由はいくつもあるのだが、彼もまた大仏に引き寄せられたと考えるのもあながち間違いではない気がする。(台東区在住)



「グローバル」に生きる

安富成良 (19回)



この「グローバル」(global)と「ローカル」(local)という言葉は「global」と「local」という言葉の合成語です。私がこの言葉を知ったのは2008年に大学院の恩師と共に日本移民学会と日本女子大学の共催で開催された移民史研究のワークショップにパネリストとして参加した時で、恩師の発表からこの言葉を学びました。この言葉は元々「グローバルな市場においてローカルな特徴や条件に留意した戦略を立てる」という意味で1980年代から日本の実業界では使われるようになったとのこと。その時以来この言葉の大切さを自分の生き方に照らし合わせて実践していこうと考えるようになりました。知り合いの方たちにもこの言葉についてお話しする機会も多くなっています。

私は居住する狭山市で、狭山市国際交流協会の活動を30年近くにわたり行

っていて、同協会の副会長を仰せつかっています。狭山市の姉妹都市の米国・オハイオ州の都市とはこれまで、市民の相互訪問、ホームステイなどを行ってききました。コロナ禍の現在はFace-to-Faceによる人的交流が出来ないため、オンライン(Zoom)での両市市民の交流を定期的に開催しています。また狭山市においては在住外国人の方も多くなり、その方たちの為の日本語教室も開講しています。狭山市での国際交流活動は時には行政側との協働でGlobalの視点から外国にある姉妹都市(中国・韓国・米国)との交流を行うと共に、Localである地元、狭山市においては在住外国人の方たちと共生して行くために、日本語教室や在住外国人の方たちと一緒に各種イベントを開催してきています。まさに「地球規模で考え、足元から行動せよ」(Think globally, act locally)をモットーに、大変ですが日々、取り組んでいます。

私にとって「Local」とは現在の住まいの狭山市ですが、他方、郷里村上市の事も常に頭の中にあります。その為、村高同期(19期)で村上市在住の安沢孝雄さんが発行している月刊デジタル誌村上広域情報誌2001)で毎月発行されるリリースエッセイの執筆者探しのお手伝いをしています。バックナンバーは以下の通りです。(http://www.murakami.21.jp/sakekkomonogatari.htm)

残された人生では、ライフワークで

ある「戦争花嫁(＝戦後、進駐軍兵士と結婚してアメリカに渡った日本人女性)」の研究(今年4月からJICA横浜 海外移住資料館で2009年に当時の美智子皇后のご行幸を仰いだ企画展「海を渡った花嫁物語」の展示の一部が常設展示として展示されます)のほか、地元での国際交流活動、そして趣味の音楽活動を3本柱として取り組み、グローバルな視点に立って歩んでゆきたいと思っています。

(狭山市在住)



稲葉修先生の気配り

林 敬三(15回)

15回生といっても2年の秋、転校して村高を卒業していませんが、東京支社勤務の時、同期生の小田洋雄さんから「規約では転校生も会員になれるから出て来いよ」と誘われ、数回関東支部の会合に図々しくも参加したことがある。新潟放送(BSN)に在職して報道記者時代が長かったので我々の大先輩、故稲葉修代議士の思い出話を紹介したい。



ある夏の夕方、後輩の若い記者が帰社していきなり、「稲葉修さんはすばらしい代議士だ」と感激した面持ちだった。その理由が面白い。「企画ニュースの【シリーズ代議士たちの夏】の

取材で稲葉さんのアユ釣りを取材中、夕立に見舞われ稲葉さんも自分もずぶ濡れになった」という。稲葉さんは「お！風邪ひくな、駅前ジャスコで着替えを買って帰れっしや」と言いながら、おもむろにズボンのポケットから濡れた当時の500円札を記者に手渡した。記者が恐縮していると「君だけでなくカメラマンと助手の分もだ」と付け加えたという。そこが素晴らしい。500円で3人分の着替えを買えたかどうか分からないが、稲葉さんの場合、人への気配りや思いやりは自然と出てくるのだろう。それ以来若い記者は「稲葉ファン」になったのは当然だが、ニュースシリーズの中で稲葉さんのアユ釣りは出色の出来栄であった。

稲葉さんといえば、1976年7月(昭和51年)ロッキード事件に絡み田中元首相の逮捕許諾書に判を押した当時の法務大臣として知られている。同じ新潟県選出で同じ時代を生きてきた政治家として様々な想いはあったのだろうが、「悪いことは悪い」と譲らない気骨の政治家であった。正義を貫き通す武士道は脈々と受け継がれていたようだ。

私も村高に在学したことで稲葉さんには取材上、色々と便宜を図ってもらいお世話になった。仕事上、多くの政治家を見てきたが稲葉さんは我が国一級の政治家だったことに間違いはない。大先輩の存在はいまでも誇りに思う。68歳で新潟の仕事を終え東京在住も

10年近くになるが、村高や村上の風土が大好きだ。毎年3回くらい趣味の溪流釣りで村上や旧山北町の山中をさまようが、最近はなかなか釣れないイワナよりは旧友と銘酒を酌み交わすのが主目的のようだ。コロナ禍でこのところご無沙汰だが今年からは大丈夫だろうか。間もなく桜満開の季節だ。「我が心のふるさと」村上に針路を取ろう。(豊島区在住)

りんご農家から

宮川正康(15回)

私の住む信州高山村は長野県の最北部に位置し東に万座温泉、北に志賀高原、西に小布施町を有し、群馬県との県境にあります。村高卒業後、東京で30歳まで過ごし、その後長野に移住しスーパー西友に勤めました。定年後、それまで食べてきた高山村の美味しいりんごを自分で作ってみたいと思い農業を始めることになり、畑を買ひ、借りて今では村一・二番の農家になりました。(東京ドーム以上の面積)



この地域一帯は果樹栽培が盛んで、特にぶどうは県内の半数以上の収量を誇る地域です。りんご専業で始めた農業ですが、11人いる孫の一人がある時、シャインマスカットが食べたいと言ひ出したことがきっかけでぶどう栽培もやりだし、今ではりんごごとぶどうが半々くらいです。当園地は標高550mにあり、昼夜

の温度差、降水量が少なくガラ地で南
向き傾斜地と果樹栽培に最適な地域の
ため美味しい果物が収穫でき、消費者
から高い評価をいただいています。た
だ農業は天候に左右されることが多
く、一昨年は台風による暴風と千曲川
決壊による水害がありました。昨年は
4月の遅霜による花芽の落下、6月の
大雨、8月の豪雨・日照不足等々異常
気象に見舞われ、4割近い収入減（酷
いところは8割減）と大変苦労した年
でした。今年もラニャーニャ現象の影
響で大雪が続ぎ、雪かき・雪下ろしの
毎日で大変でした。畑も積雪が多く作
業の遅れが心配です。

今から15年前、初めて同期会に出席
し、その後毎年出席させていただき、
交友を深めて元気をいただいております。
今では同期の友に多くのりんごど
ぶどうをお買い上げいただき支えられ
ております。中でも松澤正さんには「所
沢自然と農業」サークルの方8〜16人
と平成25年から毎年春と秋の3日間、
ボランティアで畑作業の応援をしてい
ただき、さらに毎年200箱以上の注
文をまとめてもらっています。



中山間地の農業の
大きな課題は後継者
不足です。後継者の
育成は安定した食料
供給、地域社会の維持向上に欠かすこ
とができません。当園では里親になり
村外から若者の新規就農研修生を受け
入れ、新農業人の育成に努めており、
住宅・農地・農機具の世話をし、独立

自立できる環境づくりに取り組み、こ
れまでに5人の研修生を送り出しまし
た。

肝心の我が家の後継者は、2人の子
供に先立たれましたが、孫娘が後継ぎ
として見習い中です。一人前になるま
であと10年は現役で頑張るつもりで
す。会員の皆様の中で、農業に携わっ
ている方がいらっしやいましたらご一
報ください。（長野県高山村在住）
（HP 信州高山宮川農園で検索）



日本のエネルギー問題

富樫利男（旧中40回）



エネルギー問題は過
去の日本でも諸外国で
も一般に国の盛衰に関
わる基本問題でした。
日本の場合に特に忘れ得ないのは、昭
和16年末の太平洋戦争の宣戦布告であ
りましょう。

明治維新による、富国・強兵の国策
の結果大きい成果を得て、日本は一躍
世界の強国となりましたが、太平洋戦
争の宣戦布告は、石油の不足というエ
ネルギー問題のため、戦争継続が困難
になり、石油輸出を止めた米国等諸外
国へ勝算のない宣戦布告でありまし
た。私は、終戦前は軍人であり、旧ソ

連抑留の経験をしましたので、上記の
件は忘れ得ません。然し、現在の日本
のエネルギー政策にも重要な問題が含
まれており、座視できません。

ここでは私はその概要と対策の骨子
を述べさせていたきたいと思いま
す。更に、今年の11月に、村上高校出
身で60才以上の有志の方々の会、星和
会の総会・文化講演会が開催されま
す。「日本のエネルギー問題」で私が
講演を要請されました。

エネルギーの問題を良く理解するに
はある程度の基礎知識が必要です。私
は電力会社で職中に原子力発電所の建
設に永年従事し、現在も東京のシニア
世代の原子力専門家集団に属し、集団
として近年は自民党の有力政治家に提
言する等の実績を残しました。

星和会の文化講演会では、この経験
をもとに、受講者に解り易いように資
料を準備して講演しますので気楽にご
出席下されば幸いです。

日本のエネルギー問題の解決のため
には重要な問題点は何かについて私の
考え方を以下のように整理してご参考
用に提供させていただきます。

一、政府の現在のエネルギー基本計
画には、2030年と2050年の電
源ミックスとして、再生エネルギーや
原子力発電等の目標について述べられ
ていますが現実には実行は困難と各所
からも批判されています。次期エネル
ギー基本計画では、実現可能な方向に
改訂されるべきです。

二、太陽光発電、風力発電等変動電

源を政府は今後の日本のエネルギー政
策で高く評価し重要電源として扱って
いますが、このような変動電源には大
きな限界がある事に充分注意すべき
で、過大な期待は避けるべきです。

三、原子力発電は、世界の先進国で
は一時足踏みの中、途上国では伸長が
著しい傾向がありましたが、現在は傾
向が大きく変わり、欧米諸国ではカー
ボンニュートラルを達成するには原子
力発電は不可欠な電源と見做されるに
至りました。

資源の乏しい日本は、エネルギー自
給率が小さく化石燃料を海外からの輸
入に頼っており、このために膨大な国
富を費やしてきました。

国民の暮らしや経済活動を支える強
い国家のエネルギー政策としては、い
かなる状況でも安定供給が必要で
す。日本は安定供給に大きな問題を抱
え、現在騒然としています。原子力発
電は、これ等に対応できる不可欠な重
要電源であり、政府は速やかに再稼働、
リプレース（新增設）等を政策に加え
るべきです。
（板橋区在住）



母校だより

村上高等学校 校長 山川徹也



村上高校同窓会関東支部のみなさまにおかれましては、お元氣でお過ごしのことと存じます。校長として、伝統校村上高等学校に2年勤務させていただきました。この3月末日で退職することになりました。ここまでこれましたのも同窓会のみなさまの村上高校に対するご支援、ご協力があつたからだと深く感謝しております。本当にありがとうございます。

振り返れば令和3年度も相変わらず、新型コロナウイルス感染症のため、様々な教育活動に制限や徹底した感染防止対策がとられました。多くの学校行事が内容の変更、縮小や中止を余儀なくされ、生徒にとっては高校生活の思い出づくりが難しい状況が続きました。

そのような状況の中ですが、3年生は、3月1日卒業式を行い、無事に卒業していききました。昨年は、参加できなかった1、2年生も、今年は、校内のICT(情報通信技術)環境整備が進んだおかげで、リモートによる中継により、各教室の電子黒板で会場の様子を見ることができました。卒業生代表の答辞は、在校生に村上高校の発展を託す内容を語りかけるようで感動しました。村上高校を巣立っていく卒業

生の姿は晴れやかで、また堂々として、3年間で大きく成長したことを感じました。卒業生には、120年の伝統を誇る村上高校で、「堅忍不拔」の精神で学び、卒業したことに誇りを持ち、それぞれの場所で、新たな目標に向かって努力することを期待しています。その在校生も、それぞれ1年間の教育課程を終え、18日、今年度の終業式を迎え、4月にはそれぞれ進級し、新しい学年でまた村上高校での高校生活を始めます。

様々な困難な状況の中においても、今春の進路実績では、国公立大学を始め、難関私立大学へも複数名合格者が出るなど、生徒の進路実現へ向けた努力が着実に実りました。

また、村上高校の「総合的な探究の時間」で取り組んでいる「村高イヨボヤプラン」(地域探究学習)でも、その成果が表れてきており、本校教育目標を踏まえた望まれる人間像として掲げる、①自己肯定感・自己有用感がある人、②将来に希望を持ち、向上心を持ち続けられる人、③変化の激しい社会に、柔軟に対応できる人の育成が着実に進んできています。そして新型コロナウイルス感染症のため、先行きが不透明なこれからの時代には、特に③変化の激しい社会に、柔軟に対応できる人の育成の重要性が大きくなってきています。依然として困難な状況が続きますが、村高のさらなる発展のため、挑戦を続けてまいります。同窓のみなさまには、今後も地域社会に貢献できる人

材を育成する村上高校を応援していただきますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



編集後記

作家の立松和平は1970年のその日、山谷のドヤ街にある一泊90円の簡易宿泊所で皆とテレビをみていた。テレビでは大場政夫がタイのチャンピオン、チャルバンチャイと世界タイトルマッチを戦っていた。

大場は身体中に力がみなぎりあふれていた。充たされぬ飢えを抱えたすべての人間の代表として、大場は戦っていた。立松は大場の戦う姿を見てこう思ったという。『俺がこうしてやっているのだから、お前は前前のリングで戦え。』大場が魂で叫んでいると感じた。暑い国から来た男を倒し、大場政夫は世界チャンピオンになった。

今回もコロナ禍の中、人生におけるそれぞれのリングで戦ってきただきました。心より感謝申し上げます。

星和会のご案内

共同代表 田仲一成(併1) 佐野清廣(3回)



星和会は旧制村中、村高の卒業生を主体に満60歳を超えた有志を会員としたシニアの集まりです。相互の親睦と啓発を図り、母校の発展に寄与することを目的としています。毎年1回、総会の日に母校関係者による文化講演及び午餐会を開催しております。最近の文化講演会

2019年 斎藤奎二(3回) 一人のエンジニアの回顧録

2021年 田仲照浩(3回) 新幹線などの技術雑談

本年は星和会の名誉代表である富樫利男さんを講師に迎え「我が国のエネルギー問題」についてお話を伺う予定です。

星和会には30年近い歴史があります。関東支部会員で60才を超えている方に申し上げます。星和会に入会され、講演会や午餐会に参加して自由に交流を深めることで新しいシニアの世界が開けてくると確信します。

連絡先 伊藤事務局長

電話 03-5603-2310

メール io@yaya.foks.co.jp

歴史散策の会

大塚寿子 (29回)



同窓会関東支部には「歴史散策の会」があります。世の中が落ち着いて再び散策を楽しむことができるようになる日を願い、皆様に紹介させて頂きます。

発足は平成23年、同窓会の行事の一つとしてスタート、以来、年1回の日帰り旅を実施してきました。これまでに訪ねた地は、以下の通りです。

- 第1回 (平成23年) 鶴岡八幡宮、他
- 第2回 (平成24年) 鎌倉古刹巡り
- 第3回 (平成25年) 三溪園、中華街
- 第4回 (平成26年) 金沢八景
- 第5回 (平成27年) 稲村ヶ崎、長谷
- 第6回 (平成28年) 小江戸川越
- 第7回 (平成29年) 飯能市
- 第8回 (平成30年) 浅草
- 第9回 (令和元年) 芭蕉ゆかりの地



と下見を行ない、当日を迎えています。筆者は、第6回から参加しています。相模原市在住のため、川越や飯能まで約2時間を要しましたが、それも小さな旅であり、朝から非日常を感じてわくわくしたものです。

第8回と第9回は幹事となり、目的地を都内にして集合しやすくしようと考えました。他の幹事の方たちとの計画や下見も楽しい時間でした。まずは人気の浅草。古い寄席の佇まいを楽しみ、定番の浅草寺にも行きましたが、散策の時間が少ないとの反省点もありました。それを受けて、翌年は芭蕉の足跡を辿り、森下から門前仲町までを歩きました。

また、散策の後の打ち上げも楽しみの一つです。その日一緒に歩いた楽しさのみならず、新しい発見や次回の候補地にまで話が及び、盛り上がりがあります。

これまでの歴史散策の内容は、ホームページ及び「村高」紙上に掲載しておりますのでご参照下さい。

残念ながら、令和2年、3年はコロナ禍のため実施を見送りました。今後の実施については、ホームページにてお知らせします。皆様のご参加をお待ちしています。

「臥牛会」活動報告

佐藤 勝 (14回)



35年近い伝統を誇るゴルフ同好会ですが、昨年コロナ禍とはいえお互いに十分な注意と気配りのもと、春・秋の2回開催されました。小田洋雄会長の「こんな困難な時にこそ同窓の絆は大切にした、コロナに対する個々の考えはあるから無理はせず、たとえ参加者は少くともこのコンペ開催は継続して行きたい。」という考えがあります。春・秋それぞれの成績は以下の通りです。

- 令和3年4月春季コンペ
 - 優勝 山田慎吾 (20回)
 - 準優勝 松本春二 (27回)
 - 3位 稲垣常夫 (17回)
 - ベスグロ 本間 保 (17回)
 - 令和3年10月秋季コンペ
 - 優勝 菅原 孝 (20回)
 - 準優勝 佐藤祐郎 (5回)
 - 3位 村山 稔 (22回)
 - ベスグロ 小田洋雄 (15回)
- なお、5年前から、コンペにはもう参加できなくなったという大先輩達にも声をかけ、親睦交流を図る目的の忘

村高関東支部役員一覧

令和4年度

役職	氏名	卒業
顧問	勝平	14回
顧問	宏成	17回
顧問	成忠	19回
顧問	富濃	22回
顧問	八高	22回
顧問	橋本	24回
顧問	塚林	29回
顧問	山本	30回
顧問	小井	30回
顧問	大井	23回
顧問	高橋	23回
顧問	木村	23回
顧問	丹木	30回
顧問	川上	1回
顧問	中野	2回
顧問	小野	3回
顧問	乾野	6回
顧問	荒木	6回
顧問	齋藤	6回
顧問	中野	7回
顧問	小池	8回
顧問	根根	8回
顧問	鈴木	9回
顧問	本野	9回
顧問	小林	10回
顧問	小川	10回
顧問	長本	10回
顧問	横山	11回
顧問	板垣	12回
顧問	伊藤	13回
顧問	菅井	13回
顧問	松尾	15回
顧問	尾小	15回
顧問	川村	15回
顧問	本宮	16回
顧問	田所	17回
顧問	方村	17回
顧問	中濱	18回
顧問	高橋	18回
顧問	菅井	18回
顧問	山下	19回
顧問	坂山	19回
顧問	秋山	19回
顧問	志田	19回
顧問	遠藤	20回
顧問	中村	21回
顧問	斎藤	21回
顧問	瀨下	21回
顧問	山崎	21回
顧問	鈴木	21回
顧問	本藤	22回
顧問	山本	24回
顧問	佐藤	24回
顧問	永井	26回
顧問	石島	26回
顧問	水本	27回
顧問	山本	28回
顧問	中村	29回
顧問	相馬	29回
顧問	伊藤	30回
顧問	南工	30回
顧問	藤井	31回
顧問	坂井	31回
顧問	近山	31回
顧問	森大	32回
顧問	滝山	32回
顧問	本前	33回
顧問	田前	36回



第67回春の大会



第68回秋の大会

年会を新宿の「日本海庄屋」というお店で毎年行い、いつも有意義な宴会となっております。

現在の臥牛会会員登録は約60名、毎回のコンペの案内状発送は50名位となっております。入会における会費は特別徴収せず、毎回のコンペ開催の時に参加費3,500円を頂きコンペの賞品や会の運営に充てています。今後も随時入会の受付をしていますので気軽に下記事務局まで申し込みください。

事務局担当 佐藤 勝 (14回生)
西東京市南町6-5-21
電話0424-62-9439
携帯090-3906-1165



御菓子司
酒田屋

〒958-0846 新潟県村上市安良町3-8
(有) 酒田屋 ☎ 0254-53-2527
<http://sakataya-yajiemonn.com>



村上茶栽培
製造販売
創業明治元年

富士美園

伊豆 話題の喫茶 茶寮 栄カネエイ
村上市長井町4-19 TEL 0254(52)2716

お茶以外にも村上の事なら
お任せください
取締役会長 飯島久(18回生)



おもてなしの心を料理に託して
創業慶応3年

刺ま物久

〒958-0841 村上市小町3-38
Tel 0254-53-2107 Fax 0254-53-0322
sintaku.sakura.ne.jp

広告募集

村上高校同窓会関東支部広報誌
「村高」への広告を募集します

- ・毎年一回関東支部の同窓会員
約2,000人に郵送しています。
- ・掲載は本同窓会に関係のある団体
企業に限定させていただきます。
- ・詳しくは会長・事務局編集部に
お問い合わせください。

事務局 櫻井繁雄
TEL 044(933)1033

ふるさとだより



笑顔あふれる躍進する **村上**



村上市 市長 高橋 邦芳 (30回)

この冬は例年よりも大雪に見舞われた村上市でしたが、新緑がまぶしい季節となりました。会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。新型コロナウイルス感染症はまだまだ私たちの社会生活に多大な影響を及ぼしております。そんな中ではありますが、皆様に嬉しいご報告があります。



今年2月に行われました北京2022オリンピック冬季大会・男子スノーボードハーフパイプにおいて本市出身の平野歩夢選手と弟の海祝選手が出場し、歩夢選手が見事金メダルを獲得されました。弟の海祝選手は、決勝で大空に高くと舞い上がる大きなエアを成功させ、世界に衝撃を与えました。競技後のお二人の様子からも、

お互いにリスペクトし、高めあってきた関係が見え、とても感動しました。また、昨年9月に行われた東京2020パラリンピック陸上競技男子マラソンにおいて本市出身の永田務選手が見事銅メダルを獲得され、栄誉をたたえ「村上市市民栄誉賞」をお渡しすることができました。このたび記念品である村上木彫堆朱の楯が完成し、永田選手にお渡しするとともに本市のスペシャルアンバサダーにご就任いただきました。



本市をPRしていただく「スペシャルアンバサダー」としましては、昨年12月にNG T48の本間日陽さんにご就任いただいたところであります。その際「観光や特産品など村上のいいところをたくさんの方に知っていただけるように頑張ります」とお言葉をいただきました。お二人には今後、より多くの場で故郷・村上をPRしていただきたいと期待をしております。

さて、本市が誇るブランド米「岩船産コシヒカリ」が今年3月に発表されました「2021年産米の食味ランキング」において、最高ランクである「特A」の評価を受けました。2年ぶりとなる「特A」の評価は本市にとりましても大変喜ばしく、明るい話題でありました。本市のふるさと納税の返礼品にも岩船産コシヒカリをご用意しています。また、本市が誇る村上牛、塩引鮭をはじめ地酒や村上木彫堆朱といった自慢の逸品を取り揃えておりますので、ぜひ、ふるさと納税を通じて本市の魅力を感じて頂ければ幸いです。新型コロナウイルスとの闘いが続いておりますがウィズコロナのもと、感染症に対する備えと社会経済活動の回復を目指して取組を進めてまいります。

結びに、皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに、感染が落ち着いた際には故郷・村上へ足をお運び頂けたら幸いです。皆様のお越しを心からお待ちいたしております。

村上に帰省の際は是非お立ち寄りください
ご旅館を心よりお待ちしております



新潟県 瀬波温泉 海の彩り 夕陽の季節

露天風呂 大観荘 せなみの湯

〒958-0037 新潟県村上市瀬波温泉2-10-24
TEL.0254-53-2131(代) FAX.0254-53-2768
<http://www.taikanso.senaminoyu.co.jp>
e-mail taikanso@senaminoyu.co.jp

信州高山産「りんご」「ぶどう」産地直送

今年も美味しいぶどう・りんごを沢山味わって下さい。一番美味しい時期に発送します。

ぶどう：シャインマスカット・ナガノパープル・種無し巨峰
3種詰合せ 3kg 4,500円(別途送料900円)
発送時期 9月15日～10月20日

りんご：サンふじ 家庭用10kg(28～36玉) 4000円
(りんごは送料込価格) 贈答用10kg(24～32玉) 6000円

その他の品種・価格は、スマホで「信州高山 宮川農園」で検索して下さい。(価格は本年7月改定)

ご注文はfaxでお願い致します。

宮川農園 宮川正康 (村高15回生)
fax 026-246-9666 携帯 090-1554-2707